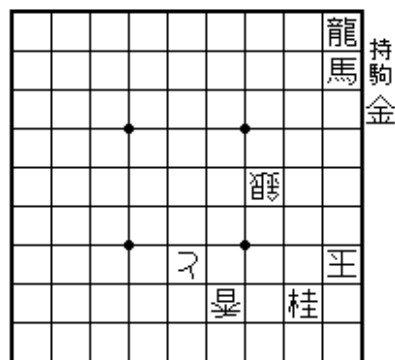


①橋 圭吾さん作



▲56馬 △28玉 ▲38金 △29玉 ▲39金 △同玉  
▲19龍まで7手。

3点-11、2点-6 平均 2.65 13位

(座談会)

蛙-最初は橋さんの七色図式ということで。前のヤン詰の詰とうほくジャックを狙ったときのボツ作ですね。(笑)

A-簡単すぎ。

蛙-ここ(45)に誘われるようですと良かったんですけど。

B-でも56だね、まず。

蛙-下辺の配置がねえ。

☆後で登場の作者曰く、「数足りないだろうと思って出した。16作も出るならやめとけばよかった」。本番の短コン予定作見せてもらいましたが、あれは良かったです。皆さん、乞うご期待。

(短評)

Uraさん「最下辺の特殊性を使った詰上がり、7種駒使用では上出来」  
うによんさん「使用駒七色であることを指摘しておくのが親切というもの  
だろう」

たくぼんさん「開く場所の意外性はないが、何となく好感が持てる作品」

藤井孝太郎さん「スタートに解き易い作」

やっくん「38金が妙に見えづらい」

原亜津夫さん「48香の意味についてちょっと考えた」

☆わかりました？

今川健一さん「19竜捨てに誘われる、少し意外な展開でした」

小五郎さん「個人的にちょっと思い入れのある七色図式の7手詰。これで  
全問チャレンジしようと思いました」

小峰耕希さん「僕なら、3手目19龍で5手目に馬を捨てるような展開で  
作りたいかな」

MNさん「7色図式。もう少し紛れがあると良いのだが」

忠昭さん「馬の明き王手が見えてるも場所が問題」

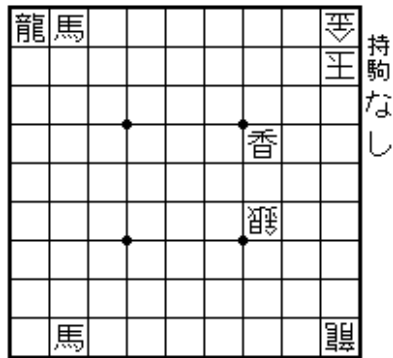
風みどりさん「初手にもう少し意外性があればグッド」

北北東さん「金の捨て方がうまい。香の動きをしていない七色は蛇足」

利波偉さん「一番平凡なところに馬を引くのはちょっと底が浅い」

伊田勇一さん「初めに45馬を考えてしまう。切れ味のいい手順でうまく  
まとめている。」

②利波 偉さん作



▲33香成△89龍 ▲45馬 △同銀 ▲11龍 △同玉  
▲22金まで7手。

3点-8、2点-9 平均 2.53 15位

(座談会)

蛙-「これは狙いがわかりやすく好きなんですけどね。こう、バーンと豪  
快で。④が似たタイプで少し損しましたか。ブービーでした」

A-「ちょっと収束がねえ」

B-「必然だし」

蛙-「龍(19)が下にも動く展開だとすごいんですけど流石に無理ですか」

(短評)

Uraさん「無造作な攻駒取りの配置がスゴイ」

たくぼんさん「機械的な手順。もう少し柔らかさがあればいいかな」

藤井孝太郎さん「楽しいが、駒取りが残念」

やっくん「落とし穴がありそうで怖い。」

原亜津夫さん「ひょっとしたら4番とペア？」

今川健一さん「玉方の竜を、もう一回活躍させたいね」

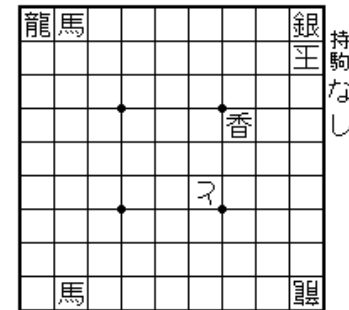
小五郎さん「大駒を大きく動かすのが何とも気分良いですね」

小峰耕希さん「ちょっと素直過ぎるような気がする」

MNさん「他に詰みそうな手が無いので一本道」

忠昭さん「明き王手2連発も必然手」

風みどりさん「こんな案はどうでしょう」



☆(°д°)㍻-

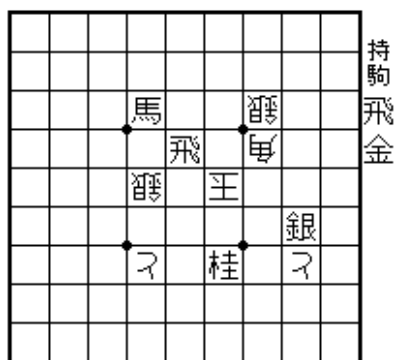
北北東さん「誰もが一度は通る道。もうひと工夫ほしいところ」

利波偉さん「なんて恥ずかしい作品なんだ！狙いは大駒が大きく動くこと。」

穴埋めのつもりだったのに、16作も集まるなら投稿しなかったのに、...

伊田勇一さん「大技が見事に決まっている。しかし質駒取りの11龍で前半の手順を帳消しにしてしまった」

③中村 雅哉さん作



▲56金 △同銀 ▲43飛 △同角 ▲44飛 △同玉  
▲35銀迄7手。

5点-4 4点-6 3点-4 2点-2 平均 3.75 5位

(座談会)

蛙「43を塞いで44飛が狙いなんですけど、すぐに打つと失敗で、56を塞ぐ手を先に入れなくてはいけない、という作品ですね」

A「ちょっと見えてるよね」

蛙「この形(馬・飛・銀)だと両王手でまず間違いないですからねえ。でもキッチリと出来ていると思います。中村さんというと変化・紛れをキッチリと書いてくるって三角(淳)さんも書いてましたけど、この催しのもちゃんと変化・紛れを整理した添付ファイルつきで驚きました」

B「へえ～」

蛙「しかもそれで『完全の自信はない』って書いてました。さすがです」

☆後で到着のC氏からは「よく出来ているよね、これ」というお褒めの言葉をいただきました。

(短評)

Uraさん「43飛と逃げ道を塞いでからの44飛が面白い」

たくぼんさん「上手く出来ている。初手3六金から読んだので時間がかかりました。佳作」

藤井孝太郎さん「美しい。④が比較されそうでつらい」

やっくん「着手の順番に悩む」

原亜津夫さん「すさまじい完成度」 ☆まったく。

今川健一さん「捨駒は多いが、マニアには不向き。素直過ぎます」

小五郎さん「馬・飛・26銀の位置から36へ誘い出して56飛の両王手がどこかで入ると思い込み、16問中、一番解図時間がかかりました。軽く裏切られた感が逆に新鮮」

小峰耕希さん「作意に36金(第一感)が出て来ないのが良い」

真Tさん「43飛が気持ちいい1手です。」

MNさん「狙いの43飛がやや見え透いている感じ」

忠昭さん「詰めあがり両王手と思ったが…43飛捨てが巧い」

風みどりさん「作意に変化に紛れに両王手一杯で楽しめる」

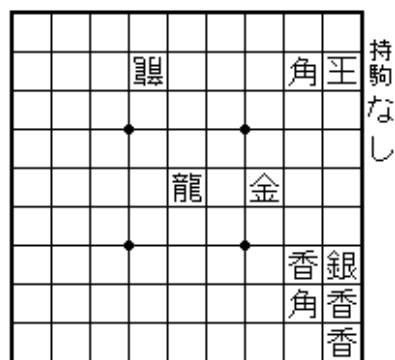
北北東さん「詰め上がりが見えなくてすいぶん悩んだ。秀作」

利波偉さん「最初47桂を消去するのかと思ったけど、手数から考えてありえないんですよね。59飛とか36金の筋でもなくて、56金~43飛の筋で詰む。巧く纏まっているけど、紛れの方が駒が大きく動くのに、小さく纏まり過ぎかなあと、贅沢すぎる望みでしょうかね？」

☆贅沢です。(笑)

伊田勇一さん「36地点で詰むのかと思ったがそうではなかった。43飛限定打がクライマックスだが、それを成立させている33銀配置がうまい」

④オタマジャクシさん作



- ▲11角成△同玉 ▲51龍 △同龍 ▲55角 △同龍  
▲28銀まで7手。

5点-1、4点-3、3点-11、2点-1、1点-1 平均 3.12 10位

(座談会)

蛙「②と同じような感じで、わかりやすく豪快、という作品です」(…と盤面に並べるが35金を置き忘れ)

A「金がないよ」

蛙「アレ、ほんとだ。う〜んと、これでも何とかならなかったっすかね。

玉方45歩とかだと駄目なのかな。28を馬にして」

A「13角成で詰まない？」

蛙「あちゃー、そうか。…あれ、でもコレ(24歩)でどうです？」

B「詰まなそうだね」

蛙「柿木どうでしょう？…ってすぐに頼るあたりが情けないんですけど」

C「…OKっぽいですね」

蛙「紛れも増えるし変化(2手目13玉)も綺麗なのでこっちにしたいで

すね。…ああ、でもこれだと4手目12玉が変同になっちゃうか。残念」  
☆…ひとりよがりですみません。

(短評)

Uraさん「攻駒の整理を順序よくする」

うにょんさん「2と4でワンペアか」

たくぼんさん「紛れが少ないので簡単だが、最終手は創意を感じる」

藤井孝太郎さん「35金がぴったりした配置」

やっくん「かわった詰め上がり」

原亜津夫さん「理由の直列つなぎ」

今川健一さん「初めに目的ありき。初志貫徹、おめでとう」

小五郎さん「銀を引かせるための大胆な事前工作。はっきりしたねらいが好感触」

小峰耕希さん「単純だけど、受方龍が2度動くのは気持ち良い」

MNさん「狙いが明快な点は買いますが、もう少し紛れが欲しい。例えば、攻方35金を玉方45歩に変え、28角を馬にして13角成、同玉、46馬の筋を見せる、とか」

☆ちゃんと同じ意見が出てました。(笑)

忠昭さん「銀の行き場所を作る大駒3連捨てが心地よい」

風みどりさん「余詰消しの3五金が大胆！」

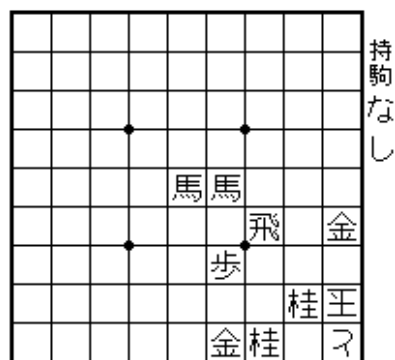
北北東さん「やさしくて面白い」

利波偉さん「②の自作と少し似てますが、完成度はこっちが高いですね。

こういうパズルみたいな作品は、絶連でも好きです」

伊田勇一さん「2番と似た感じの豪快手順で最終手が特に良い。しかし、初形から28銀引の詰上がりが見えており、作者の一人相撲に終わった」

⑤やっくん作



▲26飛 △36飛 ▲17金 △同玉 ▲16飛 △同飛  
▲27馬迄7手。

5点-3、4点-7、3点-6 平均 3.81 2位

(座談会)

蛙「これが2位でした。やはりインパクトが大きいですね」

B「面白い意味づけの中合いだね。桂を跳ねさせないためか」

蛙「私はあまり合駒の意味づけの延長でそのまま詰むのは好みではないんですけど、この作品の場合はここに飛中合、というだけで十分にすごいと思います。それにこの形でよく余詰まないですよ」

A「47歩がちょっと惜しいけど」

☆前に似た意味合いの作品をやっくんのブログで見ますが、どちらも主張があって素晴らしいと思います。こちらは無仕掛けに近い構図で紛れを排除した分インパクトとユーモア度が高いですね。

☆解答が後で追加された分で同率になってしまいましたが準優勝おめでとうございます。

(短評)

Uraさん「桂跳ねの障碍を誘致するという面白い意味付けの飛アイ」

うよんさん「やりたいことをちゃんとやってる」

クロさん「桂跳ね防止の中合7手。完成度が高い」

たくぼんさん「これは” やっくん” でしょう。強力な攻撃陣ですが、まだ飛車をくれるのに取ったら詰まないとはユーモラス」☆正解！

藤井孝太郎さん「17金として初めて中合が決まる」

原亜津夫さん「やはり55馬が気になる」

☆安江さんが「一流作家は強欲の塊」と書いてたのを思い出しました。(笑)

今川健一さん「36飛合に痺れる。その飛が動いた、これで高得点」

小五郎さん「5手詰めかと得意の早とちり、びっくり延命策の飛合！」

小峰耕希さん「中合物に対しては、いつもつい評価が甘くなります」

MNさん「中合の飛を動かす手順は苦心が感じられる」

忠昭さん「中合いの飛を取らずに動かす処が良い」

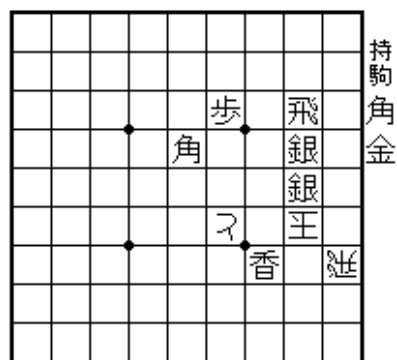
風みどりさん「これはやっくん(^^)。飛車の中合を動かすとは流石！」

北北東さん「文句なしの手順。形も良い」

利波偉さん「中合の飛を動かす技術は素晴らしいけど、後片付けが絶連なのが少し物足りない」

伊田勇一さん「不思議な感覚の中合が好印象。その後の手順が決まればもっと良かったのだが、難しいのでしょう」

©hiro さん作



▲15角 △同飛成▲27金 △25玉 ▲15銀 △同玉  
▲16飛まで7手。

5点-1、3点-4、2点-5、1点-7 平均 2.00 16位

(座談会)

蛙「紛れが少なくて残念ながら最下位でした。」

A「手順が平凡なので『これでいいの?』と思うところはあるよね」

D「誤植かと思った」

蛙「そりゃあんまりです(笑)」

B「どれどれ…う～ん、でもこれ新人の方なんでしょ」

蛙「そうです」

B「なら十分でしょう。完全だし」

D「そうそう。角捨ててるしね」

蛙「この15角が多分ひも付きでなくても成立しそうなので、少しそっち  
の方向で変えられないかなあ」

B「ああ、(玉で)取れば16銀の筋でいけそうだね」

蛙「でも同飛成か…。う～んと一段下にずらして…(とアレコレいじる)。

ダメだ、ワタシ、最近マグネット盤でないと詰将棋作れないんですよ」

B「なんだそりゃ(笑)」

☆…ということで、改善案はもう少々お待ちください。

(短評)

Uraさん「こんな詰将棋見たこと無い!」

たくぼんさん「う～むこれは…本当にこれでいいのか?と悩む時間が  
掛かりました。本当にこれでいいのか?」

藤井孝太郎さん「まだまだ工夫の余地ありそう」

やっくん「37に逃がさない手は限られている」

原亜津夫さん「初手の角捨てが狙いかな」

今川健一さん「パラ誌なら、「入選して良かったね」と書きたいね」

小五郎さん「玉方の飛が成れることをうっかりしてやり直し。これも作者  
のねらい?」

小峰耕希さん「誤解してないか心配になる程平凡な手順。というか作者の  
主張が見えて来ないです」

MNさん「絶対の初手、駒取り、最終手余詰…。狙いがわからない」

忠昭さん「素直な手順で紛れ少なし」

風みどりさん「これは新人の方かな?」

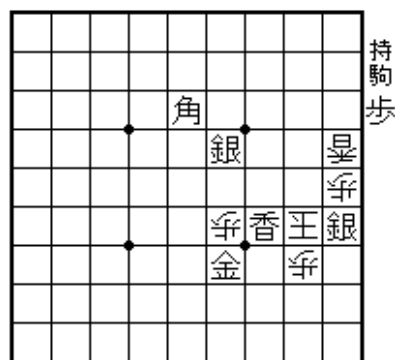
北北東さん「37香の配置では初手が絶対手になってしまう」

利波偉さん「7手で絶対手の駒取りが入るので、明確なテーマが欲しいが  
本作にはそれが無い」

伊田勇一さん「実戦で15角を見つけて詰ませれば、気分最高でしょう。

そんな手をそのまま作意にしたものか。しかし、詰将棋となると15角  
は当然の一手で考える余地がない。新人の作だとすれば、初々しくてい  
いです。今後に期待」

⑦ポアロさん作



▲33銀生△44桂 ▲同角生 △16玉 ▲17歩 △25玉  
▲37桂まで7手。

5点-2、4点-6、3点-6、2点-3 平均 3.41 7位

(座談会)

蛙「7手で打診中合の意欲作です」

B「…ああ、ココ(44)ね」

A「少しありがちな形ではあるけどね」

蛙「昔、首(猛夫)さんがこの形に近い形で打診中合の作品連発してましたんで、私はすぐ解けちゃったんですけど。で、これ変長ではないか、って指摘しまして」

E「そうそう」

B「えっ?どうやって?」

蛙「いや4手目35歩合で。これだと最後37桂では詰まないから」

B「ああ、ほんとだ。変長だね。玉にすれば直らない?」

蛙「お、そうか。これだと46歩も45にできて面白いかも。…でもダメ

ですね。43玉がある」

B「(柿木にかけてみる) あれ、そもそも詰まないみたい」

蛙「あ、そうか35歩で詰まないですね。やはり7手では難しいのかなあ」

(短評)

Uraさん「うまく作ってあるが、原理図かなあ」

たくぼんさん「これは稲葉さんでしょう・・・あれ?名前がない?これは作品よりも難しい謎だ」

藤井孝太郎さん「シンプルに高度な狙いを表現」

やっくん「46歩がアヤシイ」

原亜津夫さん「打診中合を7手でやるとこうなるんだな、と思った」

今川健一さん「丁々発止、やりますねえ。35歩合を見落とす処。これは、お世辞」

小五郎さん「打歩をめぐる攻防、35への合ばかり考えて駒が余って大弱り。44桂合がありましたか」

小峰耕希さん「46歩配置が苦しいのと、後半が弱いかなとは思いますが、冒頭3手は完璧。作者予想…ポワロさん(「トリック作を投稿します」と仰っていたので)」☆おお、推理してますね。(笑)

MNさん「しぶとく44桂。典型的だが打診中合入門として好適。ただ、4手目35歩合がちょっと気になる」

忠昭さん「巧みな銀と角不成」

風みどりさん「7手で打診中合とは驚いた」

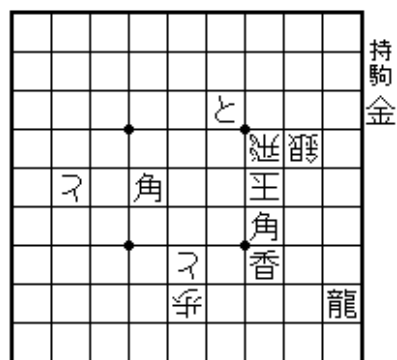
北北東さん「やさしすぎるが、打診中合を7手詰で表現したことに価値」

利波偉さん「清水晏安氏の有名な作品に似ていて、紛れ順を作意にしたような作品。でも清水氏の作品の方が出来が良い」

伊田勇一さん「7手詰に打診中合を持ち込む意欲を買います。でも、やっぱり7手詰には何かないテーマと感じます」

☆驚きが短評からもあふれてます。話題を集めて成功ですね。

⑧たくぼんさん作



▲63角成△46玉 ▲48龍 △同と ▲45馬 △同玉  
▲56金まで7手。

5点-4、4点-6、3点-6、2点-1 平均 3.76 4位

(座談会)

蛙「いかにもたくぼんさん、という切れ味の鋭さです」

E「でもこれ、収束見えてるからなあ」

D「え～、全然見えなかったよ。だいぶ考えた」

蛙「85とは限定にするための配置とか。…ないとやっぱりダメだな。と  
ころでコレも変同ではないか、という指摘ありました。2手目25玉で」

A「あれ、そうなの？」

B「…う～ん、他でも詰みそうなんだけどね」

E「飛車取る筋でも詰むから希望限定か」

A「簡単に詰むから気にならなかったなあ」

D「そうそう」

蛙「そういうのってありますよね。指摘も一名だけでした。流石に一枚置

く気にはならなかったんでしょね」

(短評)

Uraさん「48竜から45馬とは、巧く馬の長い脚を使ったものだ」

クロさん「収束が微妙に見えているのが残念だが手順はよい」

藤井孝太郎さん「初手限定。25玉が変同でなければ素晴らしいが」

やっくん「48竜になかなか気づかなかった」

原亜津夫さん「詰上がりは見えやすいが、大駒の効きを強調する表現は見  
事」

今川健一さん「初手は限定成？でも誰でも、ここに成りますよね」

小五郎さん「何気なく限定されている初手がすごい」

小峰耕希さん「初手の選択肢が多く、48龍～45馬が好感触」

MNさん「大駒の威力を見せ付ける手順。しかし、2手目25玉の変同と  
思うのですが。もしそうなら致命的に痛い」

忠昭さん「力強い竜馬捨ても初手必然」

風みどりさん「さりげない限定移動がしぶい」

北北東さん「余詰防止の85とが残念。せっかくの好作が台無し」

利波偉さん「簡単だけど、63に成る意味付けが巧い。以下も綺麗に纏まっ  
ている」

伊田勇一さん「45馬は気付きにくい手。そうさせているのは、初手に角成  
を入れたことによる効果であり、作者は経験豊富な方か。好作」

☆ツボを押さえた作り方は流石に大家です。好評でした。